

6月25日正午必着

明石春浦先生書

常命出子百二少  
 所後由難  
 飛揚千行路  
 之要之白面之壽  
 龍雁塔在  
 智若徹淨  
 最中修房好  
 消是(高)名(寺)  
 孫(好)考...

寒暄皆有景  
 畫燈籠雁塔

孤絶畫難形  
 夜磬徹漁汀

地拱千尋嶼  
 最愛僧房好

天垂四面青  
 波光滿戶庭

(孫 魴)

明石幸子書

松軒蘿徑  
 山中幽居

松軒蘿徑(唐寅) 山中幽居である

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

夏潭蔭脩竹<sup>一</sup>(武帝)

夏潭脩竹<sup>一</sup>蔭う

夏あのふちの上には長い竹が茂つておおいかぶさっている。

半溪淺碧春前雨  
滿地殘紅午後風 (曹伯啓)

半溪の淺碧春前の雨  
滿地の殘紅午後の風

初夏の景。

岳州逢司空曙<sup>一</sup>(李端)

岳州にして司空曙に逢う 李端

共有髻年故相逢萬里餘

共に髻年の故有り相逢う 万里余

新春兩行淚故國一封書

新春 兩行の淚 故國 一封の書

夏口帆初落涪陽雁正疎

夏口 帆初めて落つ 涪陽 雁正に疎なり

唯應執杯酒暫食漢江魚<sup>上</sup>

唯だ応に杯酒を執り暫く漢江の魚を食すべし

我が立てる岩を残して凝れる雲 白く平けく遙けくも空に (窪田空穂)



叶 采園先生書

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

水 衝  
急 橋  
二

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

衝橋ニ  
水急

隸書

衝橋ニ  
水急

明石春浦先生書

草書

衝橋ニ  
水急

行草書

衝橋ニ  
水急

林中の住居には格別の楽しみもなく 花壇の垣根のほとりに茶を淹れるほどのこと  
雀は北の窓辺に餌を啄んで日は暮れゆき 僧が西の閣をうち開けばひえびえとしている  
橋につきあたりつつ、二つの川はすみやかに流れ 月光の下に撞く鐘の音はわびしくもうすれゆく  
夜明けにはまたお別れせねばならぬ 前途の険しさをいたずらに悲しむばかり

龍翔喜「胡權訪宿」 喩鳥

林棲無異歡

煮茗就花欄

雀啄北窓晚

僧開西閣寒

衝橋二水急

扣月一鐘殘

明發還分手

徒悲行路難

竜翔にして胡權が訪ねて宿するを喜ぶ 喩鳥

林棲 異歡無し

茗を煮て 花欄に就く

雀は北窓の晩に啄み

僧は西閣の寒きを開く

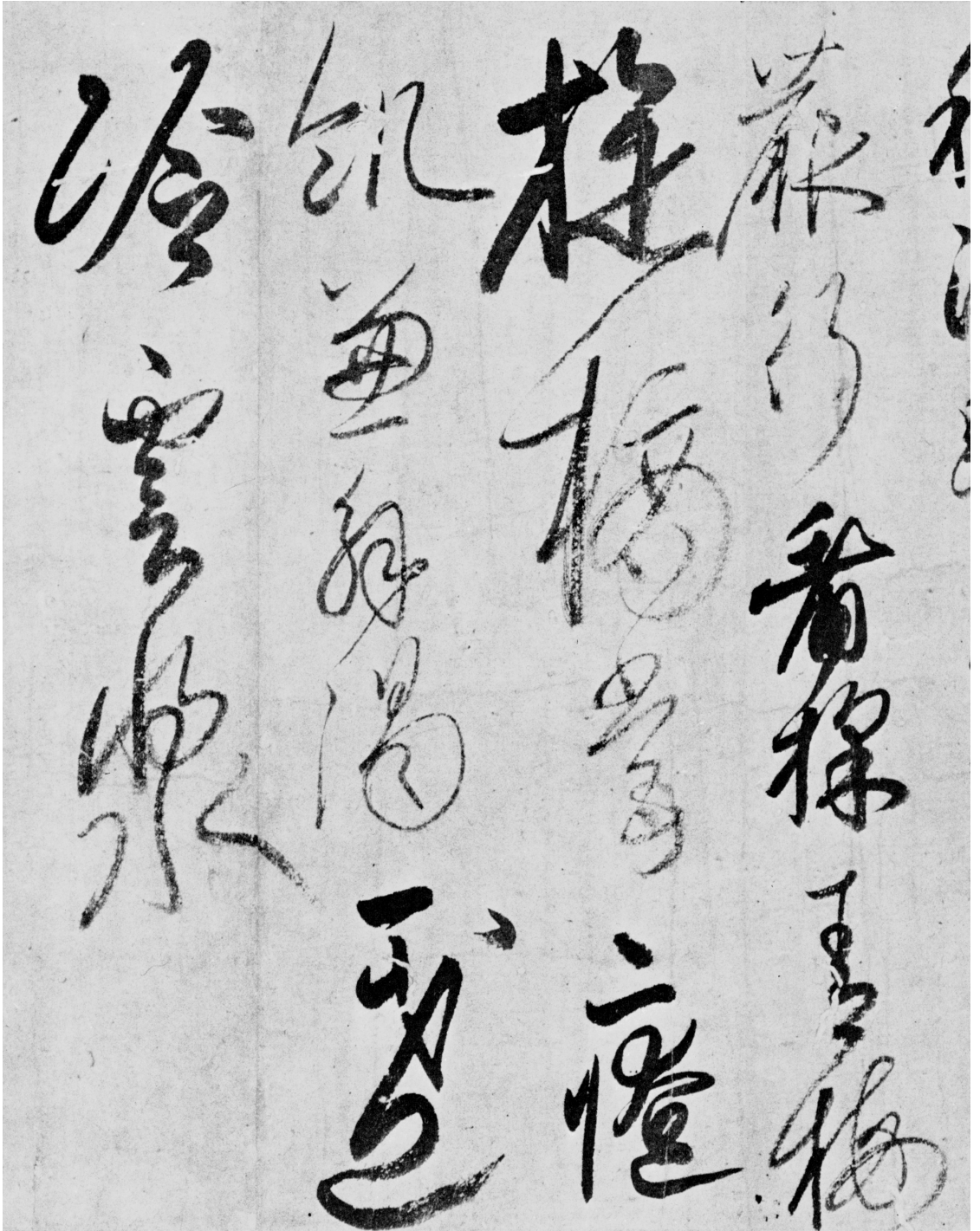
橋を衝いて 二水急に

月を扣いて 一鐘残す

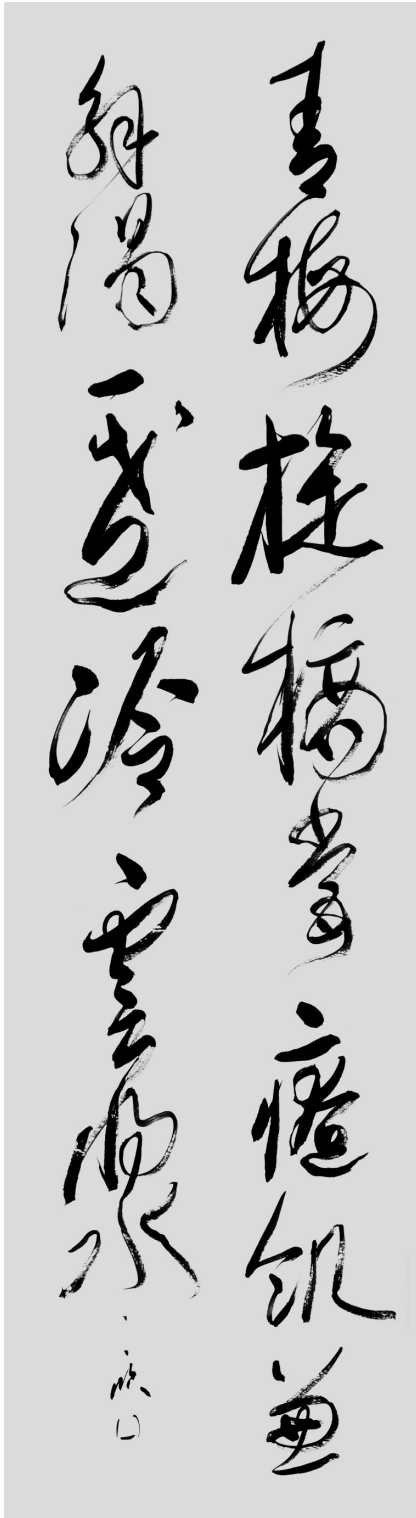
明發 還た手を分つ

徒らに悲しむ 行路の難きを

(出典)  
朝日新聞社刊  
「三体詩」下より



(紫) 蘇行看採 青梅旋摘嘗 療飢兼解渴 一盞冷雲漿  
 紫蘇、行くゆく見て採り、青梅、旋摘みて嘗む。飢を療し兼ねて渴を解く、一盞の冷雲漿



青梅、旋摘みて嘗む。飢を療し兼ねて渴を解く、一盞の冷雲漿



青梅、旋摘みて嘗む

小野道風・玉泉帖

小野道風は、遣隋使で名高い小野妹子を先祖にもつ名門の家系に生まれ、「能書」の功により藏人所に召し出され、書をもって官に仕えた。その書は後に、藤原佐理、藤原行成と共に、三跡と称せられる。王羲之書法を骨格に、和様書道の源を開いた日本書道史上大きな存在である。

道風の書に通じて見られるのは、独特のねばりであり、筆太い線を駆使して、整った字形の中にみながる豊満な様相である。運筆はゆるやかなうねりを持ち、一定の筆圧を保ちつつ運んでいて、これが和様と称せられる書風の典型である。

玉泉帖は、同じ道風の書でも、屏風土代（土代は下書きの意）が勅命で揮毫した作品でいろいろな制約があったのに対し、自分の気のおもむくままに詩（白居易の詩文集）を書いたものである。楷、行、草の三体を効果的に交え、文字の大小、墨の潤濁、さらに、筆線の肥瘦の変化を加味し、変化縦横で、実に自由奔放で大胆な書きぶりになっている。

巻末に、「是を以て褒貶を為すべからず、例体に非ざるに録るのみ。」と自ら跋語を書き加えていることから、自分の書風とは意識的に離れた斬新な創作で、道風としての力量を十二分に發揮した作品といえるだろう。※褒貶 褒めることと、けなすこと。（春龍）



雨宮春聲先生書

わく

せい

中学一年



菅井松雲先生書

しん

び

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



はつ  
発

めい  
明

小学五年

榎戸春龍先生書



し  
資

かく  
格

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



6月25日正午必着



あま  
雨

おと  
音

小学三年

藤田幸春先生書



と  
時

けい  
計

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

つ ゆ 小学一年・幼年



森戸春濤書

<sup>ひろ</sup>広 い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

水たまりに自分の  
顔をうつして見た

小学五年

雨上がりの静かな山  
里にかかる七色の橋

小学六年

雲の切れ間よりさす光  
大地の草木がよみがえる

中学

そよぐ風にうつて聞こえ  
てくるやさしい愛の歌

一般(級位)

山寺の花はついで鐘の音  
今もそよぐ人ぞちりゆく

一般(段位)

山寺の花はのこりて 鐘の音 今日もくれぬと 人ぞちりゆく (契沖)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

つ	あ
	か
う	い
れ	
し	な
い	が
な	く

幼年

が	ニ
	ひ
な	き
い	の
て	か
い	え
た	る

小学一年

わ	雨
や	が
か	や
な	ん
朝	で
で	
す	さ

小学二年

か	山
る	の
七	む
色	こ
の	う
に	に
じ	か

小学三年

雨	つ
雲	ゆ
は	空
な	を
が	ゆ
れ	っ
て	く
行	り
く	と

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)  
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

白鳥か  
うみたるものゝこゝちして  
朝夕めつる  
水仙の花

白鳥か  
うみたるものゝこゝちして  
朝夕めつる  
水仙の花



白鳥か  
可  
多  
うみたるものゝこゝちして  
朝夕めつる  
水仙の花  
流  
(与謝野晶子)

松永翠舟先生書